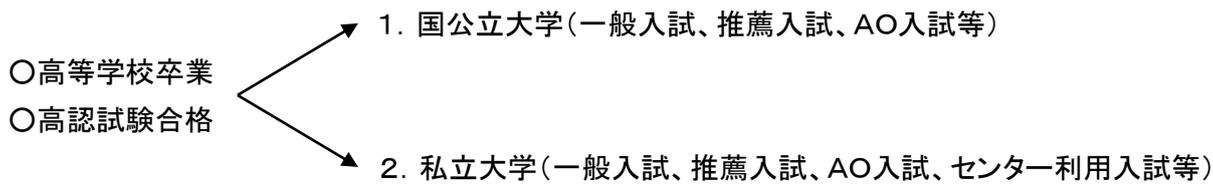


大学受験概要・資料①

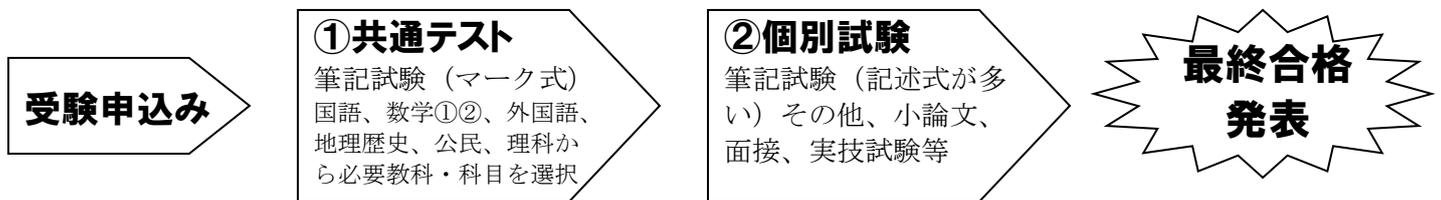
I 大学の種類・・・大学は、運営法人により、国公立大学と私立大学の2種類に分けられます。



II 大学受験の種類(国公立大学)

①一般入試(大学入学共通テスト+個別試験)

今年(令和2年)1月まで行われていたマーク式問題である大学入試センター試験は、令和3年1月16日・17日より「大学入試共通テスト」として実施されます。しかし、ここ1、2ヶ月の文科省の発表や報道によって明らかになりましたが、共通テストの目玉として、国語や数学で採用される予定だった記述式問題が令和3年1月には出題されないことになりました。したがって、令和3年共通テストは従来のセンター試験と同様、マーク式形式のみで出題されます。個別試験は教科の筆記試験がメインです。そして、その大部分は記述式となります。その他、受験先によって小論文や面接、実技試験を課すところもあるでしょう。通常、この共通テストの点数と、各大学別に実施される個別試験の点数を合算して合否が決まります。



②推薦入試

推薦入試には、公募制と指定校制があります。基本的には、学校(学校長)が大学に対して「この生徒を推薦します」として推薦する形式の入試だと意識しておけばよいでしょう。したがって、高校生活での日々の学業成績やスポーツ活動、文化活動が評価されるので、日々の生活を意識する必要があります。さて、公募制では、大学の課す条件をクリアし、校長の推薦があれば受験できます。一方、指定校推薦では、大学があらかじめ特定の高校を指定します。その上でその高校の校長が校内選抜等で推薦を決定して大学に推薦すれば受験できますが、国公立大の指定校推薦枠は少ないでしょう。いずれにせよ推薦が決定した後は、面接試験、小論文試験等を受けて合否が決まります。場合によっては、共通テストの受験も必須となり、その点数が加算されることもあります。

③AO入試

まず、AO入試とはアドミッションズ・オフィス入試の略です。そして、アドミッションズ・オフィス(以下AOとする)と呼ばれる大学の入学管理事務局がありますが、そのAOの選考基準によって行われる推薦入試の一種です。しかし、②の推薦入試とは異なり、学校の推薦は不要です。したがって、受験生自らAO選考基準に従って、自分を推薦する入試である、と考えても差し支えないでしょう。調査書等の書類審査、志望理由書、面接、小論文、グループディスカッション等の試験を受け、必要に応じて共通テストや大学の個別試験を受けて、合否が決まります。

国公立大学の場合は大体が上記①②③の種類で受験することになりますが、要するに、

- ①誰の推薦も受けずに、筆記試験等で合格点を取得し、合格する。
- ②学校(高校)の推薦を受けて、試験に臨み、合格する。
- ③学校(高校)の推薦を受けず、受験生自ら、大学の選考基準に合わせて自分を推薦し、試験に臨み、合格する。

のいずれかの方法で大学入学を目指すことになります。

大学受験概要・資料②

Ⅲ大学受験の種類(私立大学)

私立大学の場合も、Ⅱ国公立大学に準じますが、私立大学の場合は、国公立大学と違って、様々な入試形式があり、受験生にとっても選択肢が広がるでしょう。

①一般入試(個別試験)

国公立大学の個別試験同様、各大学でそれぞれ独自の筆記試験、面接、小論文等を課します。

ただ、国公立大と比較して、受験科目は少なく、文系学部の場合は英語・国語・地歴公民または数学、理系学部の場合は英語・数学・理科を受験することが多いでしょう。そして、いわゆる3教科型だけでなく、2教科受験も可能な大学学部もあることに注意しましょう。

②推薦入試

国公立大学②推薦入試に準じますが、試験内容は調査書等の書類審査・面接・小論文等の試験を受けることとなります。また、国公立大学と違って、指定校推薦の枠も多いことも挙げられます。

③AO入試

国公立大学③AO入試に準じます。受験生自ら、AO選考基準に従って、自分を推薦する入試ですので、学校推薦は不要です。

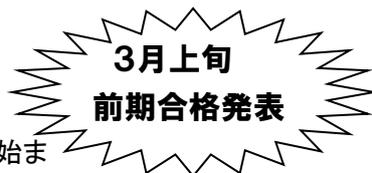
④共通テスト利用入試

旧センター試験でも実施されていたもので、共通テストの結果を利用して合格を決める入試もあります。

Ⅳ大学入試の流れ(国公立大学の場合)

①国公立大学(一般入試)

※【1次試験】1月・共通テスト→(合格)→【2次試験】2月下旬・個別試験前期日程→



まずは、7月頃までに各大学で選抜要項が発表されます。その後、10月に共通テストの出願が始まり、1月の共通テスト本番まで備えることとなります。共通テストで1次合格を果たした後は2月下旬の個別試験まで再び備えます。これを2段階選抜と呼び、国公立大学一般入試の場合はこれが大まかな流れとなります。

ここで補足しておきます。上記に個別試験前期日程とありますが、各大学の個別試験は2月下旬の前期日程の他に、3月上旬の中期日程、3月中旬の後期日程が設けられている場合があります。前期日程で残念ながら不合格になった受験生は、再び1次試験で受験した共通テストの結果に基づいて選抜され、それに合格した場合のみ、中期日程や後期日程でもう一度受験するチャンスを得られます。

②国公立大学(推薦入試等)

AO入試は8月からその試験が始まる場合もありますが、通常の推薦入試は10月以降から試験が始まります。

その際は書類審査、面接、小論文等で試験を受けることとなりますが、1月の共通テストを受験する場合や各大学の個別試験を受験する場合があります。

8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
AO入試 ←			→		●共通テスト本試験 (16・17日) ・2次個別試験出願 (～2月3日)	●前期日程 (25日～)	◎前期日程合格発表 ●中期日程・後期日程 ●中期後期合格発表
		推薦入試 ← ・共通テスト出願	→				

八戸予備校『大学受験概要と合格へ向けて』

大学入試本番までの学習スケジュール

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
	実力テスト①		外部模試① 実力テスト②		外部模試② 実力テスト③	・共通テスト出願	外部模試③ 実力テスト④		・大学入学 共通テスト ・国公立大出願	・私立大入試 ・国公立大 前期日程	・前期日程 合格発表 ・中期日程・ 後期日程お よび合格発表 表
← 基礎養成期			→ 実力養成期				← 直前期 →				

4月から来年の大学受験に向けて、受験勉強の年間スケジュールを、便宜上①基礎養成期(4月～7月)、②実力養成期(8月～11月)、そして③直前期(12月～3月)の3期に分けて考えます。具体的にどのような流れになるかを見ていきましょう。

(1) 基礎養成期

まずは4月からどの科目も基礎力を徹底的に固める時期となります。この時期は、多くの受験生は英語と数学の学習を意識することが多いようです。実際、英語は英単語・熟語から英文法まで、数学は数学Ⅰの展開や因数分解、方程式・不等式等の計算問題練習からスタートすることが多いと思いますが、国語の文章読解(現代文・古文・漢文)や英語リスニングのように、時間をかけて練習していかなければ伸びない分野も意識して学習しましょう。理系は特に2次試験で問われる理科(物理・化学・生物)の問題演習も、英語や数学並みにトレーニングする必要があります。八戸予備校では2ヶ月に一度、塾内実力テストを実施し、7月にも外部模試を実施します。これらのテストでどれだけ実力を発揮できるかを目標にすれば、モチベーションを維持しながら学習に取り組めるはずです。

次に、この時期の学習に於ける効果的な方法を幾つか挙げておきます。

1つ目は**指導者(講師)の指導を素直に受け入れること**です。受験生の皆さんの中には、今まで体得した知識に対する「自己流」の解釈や、「自己流」の問題解法にこだわる人がいます。もちろん、その方法が有効ならば受験勉強に今後も活用すべきですし、むしろ我々講師側にとって参考になることも多いと思われます。しかし「他の解釈や方法もある」という多様で柔軟な視点を持つことは、学習の場において受験生の方の「成績向上」に必ず繋がっていく、と我々は経験上確信しています。使い古された言い回しにはなりますが、学ぶとは「真似る」に由来する言葉とされています。他人の優れ秀でた面を真似、模倣をすることで、まずは自分の身に能力として染み込ませることが「学ぶ」ことだと考えられます。1つの価値観に固執するのではなく、**他の価値観を受け入れる姿勢**こそ、受験勉強において上達する近道というものではないでしょうか。理解できなかった事柄や解けなかった問題が、「あの(講師)からこういう方法を教えてもらって初めてわかった」という喜びの下で解決されるということ、受験生の皆さんが感じてもらえればありがたい、と我々は考えています。

2つ目は**「インプット(知識の記憶)→アウトプット(問題演習)」を繰り返すこと**です。覚えるべき事項をインプットしても、それが活用されない意味がありません。問題演習を通して、きちんと身につけた知識を使えるようにする必要があります。この問題演習をすることがアウトプットという作業として極めて重要です。もちろん、問題演習をしていない時間(たとえば、通学のバスの中で座っている時間やお風呂でリラックスしている時間等)でも、「今日予備校でこういうことを習ったな」と振り返って思い出すだけでも無駄ではありません。この作業をできるだけ**インプットした日のうちに何回も反復して行う**ことが記憶の定着に極めて有益となるでしょう。我々は興味・関心のあることについて、それを努力なくして記憶に定着させることが容易にできます。しかし、興味・関心のない学習対象、不得意とする科目も受験勉強の中で必要になってくることもあるでしょう。そういったものはなかなか記憶に定着させることが難しいですし、折角覚えても忘れることが多いようです。こういった科目こそ、受験生の皆さんが強い意志で何とか自分に対して多少の強制力を働かせながら問題演習を繰り返すことが必要になりますが、実際の勉強では飽きたり苦痛を感じることも多いでしょう。そこで、八戸予備校は、受験生の皆さんがこういった科目に対していかに必要最小限の知識で効率的に学習し、不得意科目から転じて得意科目につなげていくかのノウハウを伝授することができます。この方法で、得意科目はさらに飛躍さ

せ、不得意科目は得意科目にし、勉強の対象から「苦手」「不得意」な意識を減少させていきましょう。

3つ目は**家族、親しい友人、受験勉強の指導者をはじめ身近な協力者の存在を意識すること**です。受験は孤独である、という長年言われている巷のフレーズをよく耳にします。確かに、試験本番では受験生本人のみが自ら試験で解答するので、最終的には「受験勉強では強い精神を持つことが必要、すべては本人次第だ」という意見も一度聞くと正しいと思われま。しかし、それは試験本番の話において適用されるのであって、その試験本番に至るまでの毎日のプロセスにおいては、食事を作ってくれる家族、励ましてくれたり話を聞いてくれたりして精神面で助けてくれる友人、適切な学習のアドバイスをくれる指導者等、**多くの協力者があってこそ受験生の皆さん一人一人が快適に勉強できる**という意識を持つ必要があります。一見、直接的な受験メソッドとは離れた内容に感じられるかもしれませんが、精神的に落ち着かない状態であれば、勉強がはかどることはありません。こういった協力者の人たちへの気持ちを大事にし、精神的に健全な状態を保つことが勉強する際に重要であると考えます。

(2) 実力養成期

8月からは「実力養成期」と呼ぶことにします。この時期は、現役高3生が、高校総体やインターハイの終了などで部活動を引退し、本格的に受験勉強に取り組んでいく時期になります。特に外部模試の結果などで高3生の追い上げを意識することになるでしょう。また、7月まで固めた基礎学力を元に、共通テストや国公立2次試験や私立大の問題を中心とした応用問題に取り組む時期にもなります。また、実力テストや外部模試の機会も増え、今まで積み重ねてきた学習の成果が試されることも多くなるでしょう。実際に、受験生の皆さんの中にはテストや模試の結果に影響されることも多いのですが、その結果に一喜一憂せず、受け終わったテストや模試は「良き問題集」として活用していきましょう。本番で良い結果を残せばよいのですから、むしろ受験勉強中の実力テストや模試では大いにミスをしたり、失敗するくらいでいいと思います。

各論ですが、まずは英語について、基礎養成期で固めた英単語・熟語や英文法を元に、長文読解に取り組む機会が増えると思います。数学はⅠAⅡBの総復習はもちろんのこと、理系は数学Ⅲの練習を十分にする必要があります。理系学部では国公立大であっても私立大であっても筆記試験では数学Ⅲの出題される割合は多く、むしろこの分野がメインではないかと思われるくらいに感じられるはず。文系において、各大学の個別2次試験で地歴公民を使用する受験生は記述解答対策を講じる必要があります。

次に、遅くとも11月からは志望大学の赤本等で過去問を吟味し、研究する必要が生じると思われます。過去問を制する者は受験を制する、と言っても過言ではないでしょう。志望する大学の出題する傾向を把握することなくして、合格することはありえないと思われます。まずは、出題数、出題内容を知り、志望大学の「癖」を少しでも感じ取るために、過去の出題例に取り組みましょう。その傾向や分析結果をよりわかりやすく八戸予備校では伝えることができますので活用していただきたいと思います。同時に共通テストの問題を意識する必要があります。旧センター試験の過去問を利用し、「この時間内にこれだけの問題を解く」という意識を培う必要があります。共通テストは旧センター試験の特徴を十分引き継いでいる可能性がありますので、この点を意識するだけでも学習へのスタンスが異なるでしょう。

一方、入試関連では、AO入試を受験する受験生はこの時期に試験が重なりますので、普段の学習と受験のバランスが重要になります。また、10月上旬には共通テストの出願という大きな作業がありますので、出願の際は願書の作成ミスや提出すべき書類の不足等がないよう、慎重に取り組む必要があります。こういったことを疎かにせずきちんとこなすこと自体が、実は試験されているのだ、という意識を持つことが肝要でしょう。

(3) 直前期

12月からは共通テストを意識して、「時間内に」解く練習をする必要があります。いくら普段の問題練習を十分にこなしていたとしても、時間内に素早く解かなければ高得点は望めません。そういった観点からも、旧センター試験の過去問を利用して、時間内に解く練習を意識しましょう。出版されているマーク式問題集を活用する手もあります。共通テスト終了後は、自己採点をし、速やかに出願する大学を決定することになりますが、この決定後は、実力養成期で培った応用力を下に、志望大学の過去問題や類似問題に取り組むようにしましょう。この時期では新たな参考書や問題集を購入して取り組むと「この問題はどやって解くんだっけ」「これはどういう内容だっけ」というように、不要な不安に駆られることも多くなるので、以前から取り組んでいた問題集等の復習に十分時間を割いて、記憶の定着および確認作業に努めるとよいでしょう。

「八戸予備校」では、全力でみなさんの受験をサポートしていくことを強くお約束します。ぜひいっしょにがんばりましょう！